

1988年スピタク地震犠牲者追悼式典

12月7日、スピタク地震から37年、穴澤葉子駐アルメニア臨時代理大使は、1988年スピタク地震追悼式典に出席しました。式典では慰靈碑に献花するとともに、ガブリエリヤン・ロリ州救助隊長の案内の下、同氏をはじめとするボランティアにより設置された東日本大震災慰靈碑にも献花しました。その後、同氏の案内により消防署を訪問し、今年各地で発生している山火事の消火活動に、6年前に日本から寄贈された消防車が活躍した話など、ロリ州の消防救助活動への取り組みについてお話を伺いました。同氏は、2012年にJICAプログラムを通じて日本の被災地を訪問した後、スピタク住民の寄付と自身の私財を投じ、東日本大震災の犠牲者のための慰靈碑の建立に尽力し、日本とアルメニアの相互理解を促進したとして、昨年度外務大臣表彰を授与されています。

